

「長期投資仲間」通信 For a Better Life

インベストラ이프

2

2007 Vol.50



■《生活者の長期投資元年》

投資ルネッサンス2007

いま、本格的長期運用がはじまる●個人投資家宣言採択

■《東京インベストラ이프・セミナー》第6回誌上ライブ

仮説) 投資は文化である



NEWS

● クラブ・インベストライフ 特別イベント ●

《生活者の長期投資元年》

投資ルネッサンス2007

いま、本格的長期運用がはじまる

1月14日、銀座ブロッサム中央会館にて、クラブ・インベストライフの特別イベント、1.14 さあ、銀座に集まろう!「投資ルネッサンス2007 ～いま、本格的長期運用がはじまる～」を開催し、400人弱の個人投資家とともに、長期投資について考える機会を持つことができた。

長期投資を日本に根付かせたいと取り組んできたクラブ・インベストライフの編集委員10人は、2007年を「生活者の長期投資元年」と位置づけ、生活者が経済的自立を達成し、真に豊かで幸せな人生を送るための手段として、長期投資がいかに有効かを強く訴えた。

また、「個人投資家宣言」を提案し、日々のマーケットの動きに右往左往することなく、のんびりゆったり長期投資を続けていくための心得を確認し合った。

ゲストとして、(株)大和総研経営戦略研究所主任研究員 河口真理子氏、月刊『投資信託事情』発行人・編集責任者 島田知保氏、シンクタンク・ソフィアバンク副代表 藤沢久美氏をお招きし、対談にご参加いただいた。それぞれの専門分野から率直なご提言をいただくことで、参加者に理解を深めていただきたいへん貴重な機会となった。

会場は、全国各地から想いと志のあるメンバーが参集し、編集委員やゲストとの交流をはじめ、地域の長期投資仲間の輪を広げる会員同士の交流の場ともなった。

参加者から、当日のアンケートやメールにて、たくさんの声が寄せられ、長期投資の輪が広がっていく手ごたえを感じさせる一日となった。

第一部 セミナープログラム 会場ホール

- ▶開会のあいさつ クラブ・インベストライフ編集主幹 伊藤 宏一
- ▶対談 企業と投資家がよい会社と生活をつくる (12:05~12:45)
 ゲストスピーカー 河口真理子氏 (株)大和総研経営戦略研究所主任研究員
 伊藤 宏一 (千葉商科大学大学院教授 クラブ・インベストライフ編集主幹)
- ▶対談 ホンネで語る 個人投資家のための長期投資実践法 (12:50~13:30)
 ゲストスピーカー 島田 知保氏 (月刊『投資信託事情』発行人・編集責任者)
 岡本 和久 (I-Oウェルス・アドバイザーズ(株)代表取締役 クラブ・インベストライフ編集委員)
 ——《休憩 約15分》——
- ▶パネルディスカッション
 2007年 個人投資家新時代がはじまる 個人投資家宣言採択 (13:45~14:55)
 クラブ・インベストライフ編集委員 伊藤 宏一・澤上 篤人・村山甲三郎
 真壁 昭夫・菱川 精記・渋谷 健
 平山 賢一・速水 禎・菅 淑郎
 岡本 和久
- ▶対談 長期投資ででっかい夢を描こう (15:10~15:55)
 ゲストスピーカー 藤沢 久美氏 (シンクタンク・ソフィアバンク副代表)
 澤上 篤人 (さわかみ投信(株)代表取締役 クラブ・インベストライフ編集委員)
- ▶閉会のあいさつ クラブ・インベストライフ編集委員 岡本 和久

第二部 懇親会 7階 マーガレットの間

16時30分~18時30分 (受付開始16時15分)

2007年1月14日(日)
 会場:銀座ブロッサム
 中央会館



第一部 セミナー

◆開会のあいさつ



伊藤宏一編集主幹

▶会場は大いに盛り上がった



◆対談 企業と投資家がよい会社と生活をつくる



伊藤宏一編集主幹



河口真理子氏

▶CSRをご専門とする河口真理子氏をお迎えし、理想の社会作りを視野に入れた個人投資家の行動、具体的には社会的責任を果たしている企業に投資をすることの重要性について話し合われた。投資を単なる儲けの手段として捉えるのではなく、社会作りを行う“一票”として行使することによって、社会を変えていくことができるとの提言が、事例を出して示された。

司会：小原隆子氏
キャスター・エッセイスト

◆対談 ホンネで語る 個人投資家のための長期投資実践法



岡本和久編集委員



島田知保氏

▶日々、投資信託を研究・評価されている島田知保氏をお迎えし、個人投資家が投資信託とどのように付き合っていけばいいのかメリットとリスクについて示された。とくに、資産運用に欠かせないアセット・アロケーションにおける投資信託の活用法をはじめ、販売手数料・信託報酬といったコスト面についての考え方など、きめ細やかな指摘がなされた。

《アンケートから》

対談 企業と投資家がよい会社と生活をつくる

- 消費者、投資家としての行動がいかに重要であり、その自覚が欠けているかを再認識した。
- 日本はCSRという言葉よりも、近江商人など、日本の過去にあるよい文化に学び、みんなでよい社会をつくっていかねばならないと思いました。
- 「質の良い儲け方」が求められる時代であることを認識。
- 投資と環境、興味深く聞かせていただきました。社会的に貢献する企業を応援したいと思います。
- お金が使われた後、どのように流れるか、社会全体にどのようにインパクトを与えるか、という視点が興味深かったです。
- いろいろな立場、業界に、素直な考え方、何が大切かをわかっている方がいることをうれしく思いました。
- よい社会とは「すべての命を尊敬する」社会というのがとても印象的でした。自分自身が一企業人、一生活者としてスタンスを持って、よりよい社会を作ることに取り組んでいきたい。これからの企業のあり方と投資の本来の意味について理解できました。

対談 ホンネで語る 個人投資家のための長期投資実践法

- 改めて投信を勉強したいと思いました。最近は種類も多く、少々遠慮していましたが資産運用の一つのツールとして見直したいと思います。
- アセットアロケーション、特に弁当箱にたとえた話が興味深かったです。自分はまだ20代でリスク資産ばかり持っていることに関して再考していたので。
- 投信を選ぶ上でのエッセンスが聞けておもしろかったし、実践上、頭のすみに入れておくべきことがわかりました。
- 仕事でも、人生でも、長期投資でも、ビック・ピクチャーを描くことの重要性和楽しさ。単なるお金儲けではなく、そこに思想を持つということがわかった。
- これから投資をしようと思う人間にとって、どんな罫にはまってはいけないなど、わかりやすく話してくださって大変よかったです。
- 投信のコスト、さらに信託報酬の中身についてわかってきた。
- 各論的にはすこし興味深い。「長期投資と長期放置はちがう」はおもしろい。

◆パネルディスカッション

2007年 個人投資家新時代がはじまる 個人投資家宣言採択



▲10人の編集委員によるパネルディスカッション
※詳細は、8ページ～13ページ参照



伊藤宏一



渋澤 健



村山甲三郎



平山賢一



真壁昭夫



澤上篤人



速水 禎



菱川精記



菅 淑郎



岡本和久

◆対談 長期投資ででっかい夢を描こう



澤上篤人編集委員



藤沢久美氏

▶個人投資家のあり方について提言されている藤沢久美氏をお迎えし、長期投資が日本社会に何をもたらすのか、その可能性について話し合われた。まだ、国内では少数派とはいえ、今後長期投資家が増えることによって各自の経済的自立が図られる。それに伴って、社会的貢献に自分の資産を使っていきたいという仲間が、クラブ・インベストライフをはじめ増えつつあることが確認された。

◆閉会のあいさつ



岡本和久編集委員

パネルディスカッション 2007年 個人投資家新時代がはじまる 個人投資家宣言採択

- 自分の心のなかのどこかに、やはり金持ちになりたいという気持ちがあり、そういった気持ちも悪いことではないと思うが、それが大きくなってきたときには個人投資家宣言を読み返し、心の拠りどころとしたい。
- 結果的にどういふ人生をおくりたいのかということを考えていきたい。
- 「志」は大切だとあらためて実感した次第です。この歴史的な場面に出会えたことに感謝申し上げます。
- 自分自身が長期投資の司令塔となり、実践していくための道標となりました。今後の投資の指標としていきたいと思ひます。
- いつも基本（理念）を忘れず、基本に帰るスタンスが好きです。これからも応援し、小生も力を得たいと思ひます。
- 普通は建て前が多いと思ひますが、信念に基づいて作られていると感心しました。
- 品格あるパネリストの討論楽しかったです。大変楽天的で励まになりました。
- 利害なく正しい道すじの勉強が出来るチャンスが、やっと私たち弱者にも出来たことがうれしい。めぐり合えたことに感謝しています。
- 「お金」を賤しいもの、汚いものにするか、人生の「幸せ、心の豊かさ」の手段にするかは、持ち主の品格次第であることが改めて確認できてうれしくございました。10人の講師の方々の人生観から出る意識的な言葉に触発され、自己認識の確認をさせていただき、新年からよい経験をさせていただきまひました。

対談 長期投資ででっかい夢を描こう

- 庶民は、時間を味方にするのが大事ということがよく理解できた。
- 「お金に働いてもらう」という認識がなかったので、信頼や安心感が持てるところにまかせてみたいと思ひます。
- 長期投資の環境の変化、将来が見えてきたように感じました。
- 夢があるということは素晴らしい。自分も自分の人生を全てかけるだけの夢、志を持ちたいと思ひました。
- 新しい型の投信（おらが町投信）やヴィレッジ構想が興味深かった。
- 単純明快で長期投資の本質を突いていると思ひました。明るく希望を持てる内容で、こういう話が聞きたかった。
- 私でも世の中の役に立つなんてウキウキしてくる。
- 実際に投資を実行に移すきっかけになりました。勇気と元気が出ました。
- 本格的な長期運用の醍醐味を改めて感じる事ができました。将来が大いに楽しみ。今後も前進あるのみ。



第二部 懇親会

セミナーに引き続き、銀座ブロッサム7階の宴会場にて、140名強の参加を得て、懇親会が開催された。伊藤宏一編集主幹の開会の挨拶で幕を開けた懇親会は、編集委員やゲストスピーカーとワイン片手にお話してできるという貴重な機会となった。また、全国から久しぶりに集うことのできた会員同士で旧交を温めたり、新たな出会いがあったりと、おおいに盛り上がりを見せた。



◀乾杯のあいさつ
澤上編集委員

▲開会のあいさつ
伊藤編集主幹

ごあいさつ▶
平山編集委員



編集委員、各サロン関係者やセミナー開催の協力者などが次々に壇上に立ち、各地の様子やセミナーへの感想を発表くださり、笑いの堪えない楽しい会となった。また、この席で、新たに静岡にサロン・フジヤマの設立のお約束をいただくなど、うれしいサプライズもあった。

また、どこかでお会いすることを誓って、盛会のうちに終了した。

◆お客様と談笑する編集委員



▲菱川編集委員 (左)

▲澁澤編集委員

速水編集委員▶ (右)



▲岡本編集委員



▲村山編集委員

◆サロン関係者や各地の協力会員から各地の報告が……



▲伊藤編集主幹

◆絶妙なコンビネーションで、会を盛り上げてくださった司会名トリオ



◀左から、中井朱美さん (大阪サロン)、菅編集委員、石津史子さん (大阪サロン)

◆抽選会で、編集委員の著作セットを10名様にプレゼント



▲岡本編集委員

◀プレゼンターとして、セミナーでご活躍いただいたゲストスピーカー3人もご参加くださって

◆イベントスタッフとして、全面的にバックアップくださったさわかみ塾の皆さん



左から▶ 藤沢久美様、島田知保様、河口真理子様

《全体に対する感想》

- 正直、まだまだ長期投資についてわかっているようでわかっていない状態です。クラブ・インベストライフを通して勉強していきたい。
- 21世紀に活動する女性の話は大変魅力的だ。
- 志を持ったお一人お一人の言葉はとても貴重でこれからの人生にとってとても参考になりました。そして、私も含め一人一人がみんなできるといふことが日本を良くする為に大切なことであると、あらためて感じた次第です。
- 实际的であり信念があり夢があり、無私の思いがキラキラしています。精神的にも師として頑張ります。
- 国内で個人投資家のパワーを活かす、結集する貴重なきっかけの場になると思う。一年毎ぐらいで定期的にやってほしい。
- 今日つくづくもっと早く長期投資をすればよかったと思いました。父のファンド、株での損失が有ったので、始めるまで時間がかかりました。
- スタンスにぶれがないことがとても重要だということがわかりました。講演に一貫性があり、想いがよく伝わってきました。私も金融機関に勤める者として、よい認識を社会に広げていきたいです。そしてまずは自分の行動から変えていきたいです。

◆閉会の挨拶



▲村山編集委員



◆名残を惜しむように記念撮影に応じる編集委員



▲真壁編集委員 (左)、伊藤編集主幹 (右)



▲澤上編集委員 (左)、菱川編集委員 (左から2人目)、伊藤編集主幹 (右から2人目)、菅編集委員 (右)



個人投資家宣言

1月14日の投資ルネッサンス2007の席上、編集委員10人が提案した「個人投資家宣言」が提案され、参加者の皆様の大きな拍手をもって採択されました。

ここでは、当日、第三部のパネルディスカッションにおいて編集委員が語った、この宣言にける思いをまとめてみました。

編集委員が個人投資家にわかりやすいかたちで、長期投資の理念を示したものです。ご参加できなかった方も、この宣言の意味を味わって、投資の指針にしていだければと思います。《個人投資家宣言について、ご意見・ご感想がございましたらI-Oウェルス・アドバイザー富田まで。》

【編集委員】

伊藤 宏一（編集主幹）
澤上 篤人、村山甲三郎
真壁 昭夫、菱川 精記
渋澤 健、平山 賢一
速水 禎、菅 淑郎
岡本 和久（司会）

岡本：それでは今日のメイン・イベントともいえる編集委員によるパネル・ディスカッションに入りたいと思います。

私たち、編集委員は、個人投資家が投資を行う際に持つべき基準というか、基本的な理念について過去、数ヶ月にわたって議論をしてきました。それぞれの投資家が異なった投資目的を持ち、また、異なった投資手法、異なった証券市場の前提を持つわけですが投資行動が「健全」であるためにはどのような点を守るべきかを考えてきたわけです。

その結果を五つの項目にまとめました。今日は、このパネル・ディスカッションでそれらをご紹介し、皆様にご提案したいと考えています。

今日は10名の編集委員がおりますので、ひとつの項目に付き、お二人ずつコメントをお願いしたいと思います。まず、第一条ですが、村山さんからお願いできますか？

村山：まず、第一条をお読みします。

「第一条 私たちは、生活の一部として、長期投資を学び実践する」

私はここに三つのキーワードがあると思います。「生活」、「学ぶ」、「実践する」です。

投資とは「大切なおカネを投ずる」、「おカネに働いてもらう」ことです。それから返ってきたリターンを「ありがたいなあ〜」とさせていただく。それがわれわれの生活を支えるわけです。また、投資先となる企業も、われわれの生活のなかにあるわけです。つまり、投資は生活の一部なのです。

企業のオーナーになって、一緒に汗を流すつもりで投資をする。それが長期投資です。しかし、投資はただやみくもにおカネを投ずればいわけではありません。い

くつかの基本的なルールとか原則があります。それを学ばないと長期投資のパワーを享受できません。

そして最後が実践。いくら学んでも実践がなければ何の意味もありません。私からは以上ですが、菱川さん、追加コメントをお願いします。

菱川：昔、私が証券会社にいたころ、先輩から「株は短期が基本だ。長期投資というのは短期投資で失敗して、長期塩漬け保有となることを言うものだ」などと言われたものです（笑）。そんなことから、株式には手を出さない方がいいという根強い考え方があります。皆様のなかにも「私は株などやったことがない」という方がいらっしゃるかもしれません。

しかし、直接は投資をしていなくても、社会保険、生命保険、銀行などにある皆様のおカネは、機関投資家を通して証券投資に回っています。その意味では、意識しないうちに、投資はわれわれの生活のなかに入り込んでいるのです。

クラブ・インベストライフが提供しようというのは、どの銘柄を買ったら上がるとか下がるといったことではありません。株式投資とわれわれの人生のかかわり合いについて考えるのです。魚を提供するのではなく、釣りする方法を勉強する。これが目的なのです。

平山：では、第二条にいけます。

「第二条 私たちは、長期投資によって経済的自立と社会貢献を目指す」

いちばん難しそうな条文です。漢字が一番、多い！（笑）

そこで、ちょっと角度を変えてインド独立の父、マハトマ・ガンジーの言葉を引用します。「こんな世の中になってほしいと願うなら、あなた自身がそのように変わらなければならない」——これが第二条のポイントです。



個人投資家宣言

【前文】

私たちは、幸福で自立的な生活と持続可能な良い社会作りのため、クラブ・インベストライフの呼びかけのもと、本日、全国から東京に集い、熱心な議論を行った。

その結果、自立的な生活者の長期投資が、日本と世界の未来を切り拓く、「あるべき投資の本流であり大河」であることを確信し、熱き心と高き志を持って、次の五箇条を高らかに宣言する。

第一条 私たちは、生活の一部として、長期投資を学び実践する

第二条 私たちは、長期投資によって経済的自立と社会貢献を目指す

第三条 私たちは、良い社会づくりに貢献する企業を投資によって応援する

第四条 私たちは、投資リターンに心の豊かさも求める

第五条 私たちは、急がずあせらず、ゆったりと投資を行う

二〇〇七年一月十四日

東京・銀座にて

クラブ・インベストライフ主催

「投資ルネッサンス2007」

参加者一同

個人投資家宣言

自分が変われば未来が変わる。まわりも社会も変えていくことができる。

では、どう変わればいいのか。これまでは預金通帳の数字が増えることを願っていた。しかし、これからは社会のためにがんばってくれる企業にゆっくりと投資をする、そのような自分に変わる。

企業の成長とともに、複利効果で自分自身の経済的豊かさも手に入れられる。経済的自立です。

経済的自立ができれば、次は「おかげさんで」という気持ちで「こうなったらいいなと思う社会」になるような「カッコいいおカネの使い方」をする。これが社会貢献です。

このような世の中になったらいいなという思いが実現するように自分がまず変わる、これが第二条だと思えます。では、澤上さん、お願いします。

澤上：えらい、カッコよくやっちゃったねえ（笑）。

世の中は、簡単におカネが手に入るにはできていませんね。個人でも、会社でもみんなそう。しかし、不思議なことに投資だけは、簡単におカネが手に入るように思っている人がほとんど。こんな考え方は、経済の原理から外れている。そこに大きな問題がある。

個人でも、会社でも、まず、自分のおカネを手放すことから始まる。そのおカネが世の中の役に立って、クルクル回って、コロンと戻ってくるのがリターン。リターンって「戻る」ことです。

だから、考え方を変える。初めっから儲けようなどという考えを捨てて、いかに世の中の役に立てるかを考える。「ありがとう」、「良かった」と言われることからはじめる。まず、自分のおカネを手放す。「守る」ではないんです。ひとりで自分を守れるわけがない。それだったら、みんなで一緒に良くなれば良いのです。

その結果として、気がついたら経済的自立を手に入れ、社会貢献ができるようになっていく。大事なのはおカネを抱え込まない、できるだけ手放していく意思と行動です。

伊藤：では、第三条です。

「第三条 私たちは、良い社会づくりに貢献する企業を投資によって応援する」

投資は儲けることが最後の目的ではなく、良い生活をするのが目的です。良い生活というのは、良い環境、良いサービスや商品を提供する人がいて、それを享受して豊かな生活をするということです。それを成し遂げてくれる企業を応援しましょう、というのが投資です。逆に言えば、良い社会づくりに貢献しない企業は応援しないということでもあります。

個人投資家は良い企業に一票を投じ、悪い企業にはマーケットから退出してもらおう力を持っています。投資は投票なのです。さて、速水さん、どうぞ。

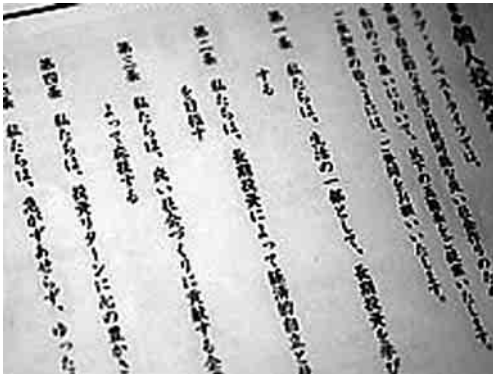
速水：問題は良い企業、応援したい会社はどこにあってどうやって見つけるかということです。

完璧に良い会社は世の中にはありません。それが現実です。私は長期投資の銘柄選びは結婚と同じだと思っています。いちばん大事なのは将来の予測能力ではなく、忍耐力（笑）。これを言うとうちの奥さんに怒られますが、共感される方もおられるでしょう（笑）。

あまり相手に理想ばかり追い求めていると、自分が苦しくなってしまう。身勝手な思いを捨てて、自分だって迷惑をかけているんだと思えば、今度は自分が何かをしてあげるという方向に考えが変わっていく。自分が変わることが大切なのです。

肩に力を入れず、軽い心で、「こんな世の中になったらいいな」と思い描いていると、理想の会社も応援した

▼自立的な生活と持続可能な良い社会作りのために



い会社も向こうからやってきます。そのほうが、長く続けることもできるし、財産も増やすことができます。

皆様が人生と投資の両方において良い相手に出会えることを祈っています。

菅：では、第四条です。

「第四条 私たちは、投資リターンに心の豊かさも求める」

「心の豊かさ」というのは抽象的ですが、二つのことをお話ししたいと思います。

ひとつは経済的自立がすでにできていて、寄付の行為などを始めているという方のことです。自分で世の中や社会に役立てるところに寄付をする。これはすばらしいことです。寄付や献金には感謝とか祝福を感じるものです。そして、とても豊かな気持ちになります。

もうひとつはその前提となる経済的自立に到達するプロセスです。どのような投資をすればそこに行けるかということです。そのために大切なのは自分自身の感覚を磨いておくことです。これは世の中の役に立つな、これはこれから大切だなという感受性を高めておくことです。

投資で得られた収益の喜びを分かち合う格好で寄付や献金ができれば、そこには感謝と祝福の気配が漂い、とても豊かな気持ちになると思います。

岡本：人生の目的はお金持ちになることではありません。それは手段です。目的は最終的には心の豊かさであり、幸せになることです。投資の目的も「お金持ち」になることではなく、「幸せ持ち」になることです。

私は、「 $I=O \times V$ 」、「心の豊かさ=おカネに換算できる富×品格」、と考えています。

「I」はインサイド・ウェルス、つまり、内側の富、心の豊かさを表しています。「O」はアウトサイド・ウェルス、外側の富、モノやおカネです。これらは「何円」という形で表現できます。「I」の心の豊かさは、「O」

のおカネに換算した金額に、「1円当たりの幸福感」を掛けたものだと思うんです。この「1円当たりの幸福感」は、言い換えれば「価値観」であり、それは「品格」でもあるといえるでしょう。

つまり、外側の富がいくら豊かになっても品格が下がっていったら内側の富はちっとも増えない。これは「おカネの奴隷」になってしまっているからです。

一方、外側の富が増えるに連れて品格が上がる人もいます。この人は「おカネの主人」といえるのだと思うんですよね。第四条はそのことを言っているのだと解釈しています。

洪澤：では、最後の第五条です。

「第五条 私たちは、急がずあせらず、ゆったりと投資を行う」

私は長い間、トレーダーの仕事をしていました。これはとても楽しい仕事でしたが、常にマーケットとにらみ合い、テンションが高い仕事でした。今の仕事では一日中マーケットとにらみ合うことができません。

私が長期投資に目覚めたのは自分の子どもが生まれたときです。彼が成人するまで毎月、積立をしようと思ったのです。

株価チャートを見ると縦軸に金額、横軸に時間がとってあります。トレーダーのときはいつも縦軸を見て、どのくらいになったら売ろうか？ということばかり考えていました。

しかし、子どものための長期投資となると、いくらで売るのではなく、いつ売るのがポイントになって、長い横軸を見るようになった。そうすると、すごく気持ちがお楽になりました。

機関投資家はいつも縦軸での勝負を要求されています。しかし、個人投資家は横軸で勝負できます。

いくら儲かっても絶対におカネで買えないものがあり



ます。それは「時間」、特に「過ぎ去った時間」です。われわれは皆、時間を持っている。それを使わないのはもったいない。時間をかけて、それぞれが思い描いた夢を共有できるような会社に投資をしていく。それが私にとっての長期投資だと思っています。

真壁：私は最近まで銀行にいまして、短期のディーリングも長期投資もしてきました。確信をもっていえるのは、短期の方が難しいということです。経済、企業収益が成長していれば、長期的には株価は上昇するわけで、ディーリングで売買するよりも長期の方が勝てる確率がずっと高い。負ける可能性が低い。

情報化の時代ですから、個人投資家と機関投資家を比較しても、情報量はそんなに変わりません。ただし、違うのはその情報を得るスピードです。機関投資家は証券会社などが即座に新しい情報を伝えてくる。個人投資家は翌日の新聞を見て知る。したがってスピードで勝負しても個人はなかなか勝てないのです。

ファンド・マネジャーをしていたときに、個人投資家をうらやましく思っていました。まず、第一に個人投資家に決算がないこと。機関投資家は三ヶ月ごとにパフォーマンス報告をしなければなりません。うまくいっていないときはこれは針のムシロです。二つ目はパフォーマンスが指数と比較される点です。実際に10%儲かっても、市場が15%上がっていれば、負けたことになる。個人投資家は市場と競争する必要がありません。そして、第三に機関投資家は内部の規定がたくさんあったり、委員会などがあって、本当に自分が良いと思う投資がなかなかしにくいということがあげられます。

イギリスのことわざに「Life is not short, as you might think. (あなたが考えるほど人生は短くない)」というのがあります。余裕を持ってゆつくりと歩いていけば良い投資も人生も持てると思います。

岡本：日本の個人は1,500兆円といわれる膨大な金融資産を持っており、その大半が預貯金になって眠っている。そのほんの一部でも、一人ひとりの方が「世の中を良く

してくれる」と思う企業への投資に振り向けられたら、大きな変化が出てくるでしょう。投資によって一票を投じるわけです。企業も持ち合いが減少して個人投資家の「一票の重み」が増してきています。そのような企業は応援を受けて社会のためにがんばってくれる。世の中に必要なことをしている企業ですから成長をする。そして投資家もそのリターンを得て経済的基盤を充実できる。自立をして、さらに余った資金を社会貢献に使っていく。そのような良いメカニズムを長期的な時間軸のなかで達成していこうというのがこの五箇条の骨子ではないかと思っています。

同時に一票を投じる個人投資家の品格も問われている。ただ、儲ければいいのだという企業の株価を追っかけてまわしている投資家ばかりだと世の中、良くならない。長期的なスタンスで大きな志を持って投資をする個人投資家が増えるほど、本当に世の中がよくなっていく。その意味で個人投資家の責任も重大であると思います。その指針としてこれらの五箇条を提案させていただきました。ここで伊藤編集主幹より個人投資家宣言を会場の皆様に提案させていただきます。

伊藤：最近、ワーク・ライフ・バランスといわれるようになってきましたが、私はワーク・ライフ・マネー・バランスが必要なのではないかと考えています。自分の仕事を一生懸命して、家族で愛をはぐくみ、おカネを増やしていかなければならない。しかし、おカネを増やすために終日、パソコンに張り付いて売買しているのでは、仕事も家庭も犠牲になってしまいます。バランスが取れなくなる。それを解決する方法が「ゆつたりと長期投資をする」ということだと思います。

と、ということで個人投資家宣言五箇条を提案します。ご賛同いただける方は大きな拍手をお願いします。

(会場、大きな拍手)

どうもありがとうございました。ここに個人投資家宣言は採択されたものといたします。

長時間ありがとうございました。

